

リニア駅周辺整備事業 土木実施設計に対する提言項目（案）

提言1 ランドスケープについて（駅から降り立った際の景観の見え方など）

（景観イメージの可視化）

- 「何を・どこから・どのように見せたいか」を明確にした上での可視化シミュレーションが必要であり、XRなど最新のデジタル技術を活用するなど、より具体的なイメージを広報することに取り組まれない。

（景観と大屋根の関係性と、標高の議論と俯瞰スポットの考え方）

- 南アルプスや伊那山地は南信州を代表する重要な景観資源だと考える。ただし、駅を降りてすぐ目の前に広がる南アルプスや伊那山地が見える画角と仰角は限定されているため、大屋根の配置や在り方を再検証し、地域が誇れるランドスケープデザインの創出を検討されたい。

- 専門家の知見と民間感覚を融合させる取り組みが必要である。

提言2 グリーンインフラについて（土曾川など）

- 駅前広場に隣接する土曾川を積極的に取り込む景観づくりを視点に入れながら、土曾川の治水についてこれまで以上に雨水排水、堤防の強靱化など国・県と共に機能担保を図られたい。

- 総合治水の観点からグリーンインフラは重要となるが、排水・導入樹種・持続性・維持管理などを総合的に設計しないと意図しない不具合が発生する可能性がある。利用者と維持管理側の双方に快適でストレスにならない設計に配慮されたい。

提言3 リニア駅とのアクセスについて

- 各方面とのアクセスについて、周辺（幹線）道路の整備は広域的な視点が重要となる。国・県、また関係自治体とも密に連携をされたい。

- リニア駅と在来線（JR 飯田駅・JR 元善光寺駅）をつなぐ手法については引き続き議論・検討が必要である。ハブ機能も大切であるが、立ち止まり効果（経済効果）等適時的確に検討し、情報開示を実施されたい。

提言4 庁内横断的な組織体制の構築について

- リニア駅周辺整備事業は、リニア推進部以外の部署が参加した全庁的な取り組みとなっていないため、当該事業に関連を有する部署が横断的に取り組めるような体制を構築されたい。

提言5 リニア効果の最大化を目指すための市民意識の醸成について

○土木実施設計により事業が具体的に進む段階に至り、「リニアを使って、このようにしたい」という市民の意識がまだ高まっているとはいえないため、市民挙げての意識を醸成する方法を検討されたい。

提言6 リニア駅周辺整備事業における地元との協議について

○事業の進捗にあたっては、駅設置の地元の声に真摯に向き合われたい。